

前橋市における美術館基本構想

平成 22 年 7 月

前 橋 市

前橋市における美術館基本構想

目 次

前橋市における美術館基本構想について	1
委員会提言における委員長あいさつ	2
1. 基本理念	3
2. 事業活動	6
3. 施設	8
4. 運営等	8
○用語解説	9
○事例写真リスト	10
参考資料	
1. これまでの経過	12
2. 構想の背景	16
3. 前橋市における美術館基本構想検討委員会の概要	18

前橋市における美術館基本構想について

前橋市では、明治以降、多くの芸術家・文化人が活躍し県内でも有数の芸術文化活動がなされてきました。このような文化的環境を基盤として、美術の分野においても多くの人材を輩出すると共に市民レベルでも活発な創作活動が行われております。

このような中、本市では第六次前橋市総合計画に「美術館構想の推進」を位置づけ検討を進めてまいりましたが、平成21年11月に「前橋市における美術館基本構想検討委員会」を設置し、基本構想に対する提言を検討いたしました。委員会は、美術館関係者や市民など見識豊かな9名で構成され、うち7名が何らかの形で本市と深い関係をお持ちであり、国内外の先進活動事例に精通した方でありました。

今回の美術館構想は、県庁所在地としては最後発の公立美術館の構想となることから、これを利点としてとらえ、現状の「地方美術館の課題」やそれらに対応しようとする全国美術館の動向などを踏まえながら、本市の文化性や都市特性、総合計画に掲げた将来都市像「生命都市いきいき前橋」、さらにアートや美術館における動向などを総合的にとらえることが必要であると考えられています。

委員会では、本市の都市特性や国内はもとより海外の先進的な事例も踏まえて、幅広い視野で検討がなされ、次第に「前橋市における未来に向けた文化的創造性を育む」「美術館の活動の主役は市民」などの共通の理解が形成されましたが、これにつきましては、次ページの池田委員長の「委員会提言における委員長あいさつ」をご覧くださいと思います。

今後の美術館整備に向けた基本的な考え方となる構想について、委員会からの提言を基に基本構想の素案を作成、広く市民の方からパブリックコメントとしてご意見をいただき、ここに「前橋市における美術館基本構想」として策定いたしました。

前 橋 市

委員会提言における委員長あいさつ

今日、国内の地方美術館を取り巻く環境は、大きく変化しています。社会の成熟に伴い、文化芸術の重要性に対する認識が高まり、市民が参画する意欲が拡大する中、人々の心をとらえ人気を博する美術館と、来館者の低迷が重要な課題となっている美術館との二極化が進んでいます。また、厳しい経済状況による運営費の削減など、美術館の運営環境も様変わりし、地域や市民に向けた活動などを含めて、人々から本当に必要とされる美術館像をめぐり、各美術館が模索している状況にあります。

前橋市では、過去に美術館構想が持ち上がったものの、整備されないまま、今日に至りました。こうしたなか、県庁所在地としては最後発となる公立美術館整備事業として、平成 19 年度より庁内ワーキンググループによる検討が行われ、昨年度には市民による「美術館構想に向けてのワークショップ」が開催されるなど、美術館整備に向けた事業が推進されてきました。

一方で、市民からは、常設展示機能（スペース）、市民ギャラリー機能、これまで本市で収蔵した美術作品の安全な保管を目的とした収蔵機能などに対する根強い要望がありました。

こうした状況のもと、本構想の検討のため、9 名の委員が招聘され、各分野の有識者の見識を結集し、熱のこもった議論が行われました。

その結果、市民ニーズに対応することを重視しつつも、さらに一歩進んで、前橋市における未来に向けた文化的創造性を育むことが、本美術館の使命であるという共通の理解を得るに至りました。また、美術館の活動の主役は市民であり、美術館の活動を通して市民の創造性が発揮され、その市民によってさらに美術館が成長し、文化活動の「核」になることが、本美術館の目指すべきところでもあります。

前橋を元気にしたい、市民が誇りを持てるまちにしたいという市民の皆様の願いが、美術館の実現により、市民とまちの活力を高めることになっていくのではないのでしょうか。

私自身、前橋市出身の一人として、また芸術に携わる人間として、前橋市における美術館の整備は、永年の悲願でありました。次代を担う子どもたちに、創造性豊かなアートと出会う機会を提供することがわれわれに課せられた使命でもあります。本美術館の整備が積極的に推進されることを切に願います。

平成 22 年 3 月

前橋市における美術館基本構想検討委員会
委員長 池 田 政 治

1. 基本理念

(1) 設置の目的 [ミッション]

アートでつながる市民の創造力

前橋市が総合計画に掲げる将来都市像「生命都市いきいき前橋」の文化機能を担う拠点として位置づけます。地域に根ざした文化と世界の様々な価値観をつなぎ、活力と創造力にあふれた前橋文化の醸成に寄与します。そのために、アート※¹と市民とまちをつなぐネットワークを構築し、そのハブ※²として、アートコミュニケーション※³の活性化を図りながら、市民が主体的に参加し未来への創造性を育む活動を支援していきます。



1



2



3

(2) 理念 [コンセプト]

① つながる 美術館



4



5

「美術館」から、「美術環」へ

美術館を拠点とした創造的なアート活動に、市民・まちが関わり「美術環」(ネットワーク)が形成され、広がっていきます。こうした「つながり」を生み出す文化的、市民生活的ハブ機能を持つ美術館を目指します。

アートの結ぶ力を介して、コミュニケーションの活性化を図り、まちづくりや新しいコミュニティ形成、あるいは地域課題への対応など、地域に寄与する事業を展開していきます。

② 成長する 美術館



6



7

市民と創るプロセス※4

美術館の設置を最終目標ととらえるのではなく、市民の誇りとなる文化の形成に向けた活動のスタートとします。

アート事業に参画する市民が発揮する創造力を原動力として、成長し続ける美術館を目指します。また、子どもたちが次世代の文化都市をつくっていくための学びの場として発展していく美術館でもあります。

このような成長するプロセスとそれを担う市民の活動を、美術館の大きな特色として位置づけます。

③ 文化を創る 美術館



8

前橋文化の醸成

前橋市における、未来に向けた創造性に寄与するアート活動の拠点(核)として、市民の主体的な参画により、地域に根ざした文化を育むとともに、新たな文化や産業の振興に寄与します。

■「美術環」(ネットワーク)と「美術館」(ハブ)の考え方

ミッションの実現に向け、市民、商店街、文化施設や公民館、学校、アーティスト※⁵、企業など幅広い人々をつなぐネットワークを構築します。「美術館」は、それらをつなぐハブとして機能し、人やモノ、情報を集め、発信する役割を担います。



2. 事業活動

(1) 美術環（ネットワーク）事業

つながる美術館のために

美術館をハブとした、ネットワークである「美術環」の構築を図り、つながり成長していく美術館の基盤とします。生涯学習施設や公民館、文化施設や地元のアーティストや芸術文化団体、学校や商店街などとのネットワークを育成し、連携事業を実施します。



21

また、市内の学校や大学と連携して、学校のカリキュラムと連動した学習プログラムや鑑賞機会を提供します。



22

さらに、美術館がアートと地場産業との連携を促進するハブとして機能していくことで、次第に地域のデザイン力が向上し、産業の活性化や新たな地場産業の創出を促します。

(2) 文化の担い手づくり事業

成長する美術館のために

市民の多面的な創造性を育み、アートプロデュース※⁶能力の向上を図り、次代を担う若手アーティストの活動支援を行います。

市民やアーティストの作品を広く紹介する機会を設け、アーティスト情報や作品の流通を促進するなど、継続的にアート活動ができる環境を醸成します。



23

また、市民やNPOと連携して、市内のアーティストに関するデータベース※⁷を構築し諸活動の基盤とするほか、様々な事業やアートプロジェクト※⁸の経緯を映像や写真、文書などで記録し、情報基盤としてのアーカイブ※⁹の形成を促進します。こうした創作活動の記録や人々とまちの記憶の集積を、美術館の収集対象として位置づけ、前橋の個性ある文化形成に向けたデータベースとして活用します。



24

さらに、市民の創作活動の発表の場や芸術作品の鑑賞機会を提供するとともに、講座や教室、ワークショップ※¹⁰などを開催し、地域文化の形成と受容の環境を整えます。



25

(3) 新たな文化の創造事業

文化を創る美術館のために

市民に対して、様々な価値観や表現手法に触れることのできる機会を提供し、市民一人ひとりが自分なりのアートとの関わりや楽しみ方を見つけるきっかけを作り出し、未来に向けた創造性の向上に寄与する活動を展開します。

従来から収集を進めてきた、全国レベルで活躍した郷土ゆかりの作家などの作品を収集・保管し、調査研究を行います。前橋文学館や教育機関、市民等と連携して、前橋市の歴史や文化、自然、産業などを体系的に調査研究します。それらの成果を踏まえ、展覧会やワークショップなど、前橋文化にふれる体験を提供します。



26

また、国内外の第一線で活躍するアーティストと連携した企画展やアートプロジェクトを、幼児、子育て世代、青少年、中高年など、様々な世代の市民が参加できる事業とし、まちづくりなどに寄与するプロジェクトについても、記録・収集の対象としていきます。



27

このように、国内外のハイレベルなアート活動や地域の歴史・文化を踏まえた取り組みと市民がふれあい、参画する活動が集積されていくことで、日常的に多様なアートに出会う都市環境を実現し、将来都市像である『生命都市いきいき前橋』を目指します。



撮影：中道淳／ナカサアンドパートナーズ 28

3. 施設

前述した事業活動の展開に向け、以下の機能を重視した施設整備を図ります。具体的には、今後、詳細な検討を行います。

- ・美術環（ネットワーク）事業の展開に向け、子どもから大人まで幅広い年代の市民が楽しみながらアートにふれ、交流し、活動するスペースを整備し、ショップやカフェなども備えます。市民が気軽に利用できるスペースとして、前橋プラザ元気 21 と連携した交流の場の創出を図ります。
- ・文化の担い手づくり事業を展開するためには、アーティストと市民が協働し創作を行うための拠点や、子どもから高齢者までを対象とした多様なワークショップが行える参加・体験のためのスペースを備えます。また、アートに関する情報の集積・受信・発信するためのライブラリー※¹¹ 機能を備えます。
- ・新たな文化の創造事業を展開するため、市の所蔵作品の常設展示室、市民によるアート活動の発表の場として活用する市民ギャラリー、及び多彩なテーマで多様な企画展を行う空間や収蔵庫などの機能を備えます。

4. 運営等

運営にあたっては、未来に向けた創造性への寄与を図るとともに、市民とともに成長する美術館として市民の主体的な活動を支援することを目指し、以下の取り組みを重視します。

- ・美術館整備のプロセスそのものを一つのアートプロジェクトと位置づけ、開館までの期間に、市民と連携したイベント※¹² や調査研究活動などを展開し、美術館に対する市民の関心を高めます。
- ・市民、生涯学習施設や公民館、商店街や学校、市民団体、アーティストなどとの連携によるネットワークである「美術環」の活動を推進するため、市内外の組織や個人を含めた緩やかな組織を構築します。活動内容に合わせて、柔軟な活動体を組織できる基盤として、多様な人材の参画を促します。
- ・ミッションや事業活動を展開する上で最も適した美術館の運営形態や組織を検討するほか、登録博物館としての位置づけなどについて、今後、詳細に検討を行います。

○用語解説

※1 アート [art]

“美術”の語からは一般に絵画・彫刻などがイメージされやすいことから、ここでは、それらを含み、さらに幅広い創造的な領域も含む意味で、“アート”の語を使っている。

※2 ハブ [hub]

車輪の部分で、車輪の外周と車軸とをつなぐスポークが一点に集中する部分。転じて、中心となるところ、中枢、拠点、交通の結節点などの意味を持つ。

※3 アートコミュニケーション [art communication]

アートを通じて、表現者や鑑賞者などが意思や感情、思考などを表現すること。ここでは、美術館の教育普及事業を含みながら、より広い意味でアートを介してアーティストや市民をはじめ様々な人々がつながり、相互に新しいものの見方やアートとの関わり方を獲得し、共有し合うことを含意している。

※4 プロセス [process]

物事を進める手順。過程。ここでは、美術館の開館をもって完成とするのではなく、美術館の開館をスタートとし、美術館に関わる市民の創造的な活動により成長し続けるという、美術館が成長し続けるあり方を含意している。

※5 アーティスト [artist]

前出の“アート”の用語解説と関連するが、ここでは、幅広い創造的な領域における専門性を備えた創作者を意味している。

※6 アートプロデュース [art produce]

芸術作品やアートプロジェクトを企画・制作すること。ここでは、様々な人々と協働し、コミュニケーションを図りながら企画・制作することを意味している。

※7 データベース [database]

特定のテーマに沿った情報（データ）を収集し、管理し、容易に検索・抽出などの再利用をできるようにしたもの。ここでは、アートを中核とする様々な情報をコンピュータや紙、映像、音声などの媒体で、収集・整理・活用する仕組みを指している。

※8 アートプロジェクト [art project]

アーティストや市民など多様な主体による、アートをテーマとした活動やイベント。

※9 アーカイブ [archive]

元来は、文書保管の仕組み。ここでは、展覧やワークショップ、アートプロジェクトなどの美術館を拠点とした活動を記録に残し、語り継ぎ、発展の基盤とするため、データベースとして集積・構築し、活用する仕組み。

※10 ワークショップ [workshop]

参加者が自発的に作業や発言を行いながら、学習や創造、トレーニングを行う手法。ここでは、市民が美術館を拠点とした活動に参画し、創造性を発揮する取り組みの一つとしている。

※11 ライブラリー [library]

一般的には、図書館、図書室を意味するが、ここでは、書籍にとどまらず、アートを中心とした幅広い情報を収集・保管・発信する機能として位置づける。

※12 プレイベント [pre-event]

一般的には、イベントなどの開催前に実施するイベント。ここでは、美術館の開館前に、美術館の設置を広報したり、美術館の目的や理念を伝える目的で実施する。

○事例写真リスト	
1 :	UTM（上野タウンアートミュージアム）2008 MACHI-YATAI PROJECT「初音の森」
2 :	UTM2009 アートランドコミュニケーション「公園を布で彩る」制作風景
3 :	UTM2009 ミチクサゴヤプロジェクト「パレード」
4 :	UTM2009 MACHI-YATAI PROJECT「浮々庵」
5 :	UTM2009 アートランドコミュニケーション「公園を布で彩る」試作風景
6 :	UTM2009 アートランドコミュニケーション「公園を布で彩る」制作風景
7 :	UTM2009 ミチクサゴヤプロジェクト「PumpUpAnimal とこどもたち2」
8 :	金沢 21 世紀美術館 特別展 「未完の横尾忠則一君のものは僕のもの、僕のもの僕のもの」（2009 年） 「横尾工房」活動風景
9 :	どんぐり小僧の大集会 in るなばあく
10 :	UTM2009 ミチクサゴヤプロジェクト「わらしべ長者号、物々交換中2」
11 :	UTM2009 伝統技術の応用によるイノベーション商品開発プロジェクト 「技と工芸感Ⅱ」ワークショップ【革】
12 :	UTM2009 アートランドコミュニケーション「公園を布で彩る」制作風景
13 :	UTM2009 SUSTAINABLE ART PROJECT『Solar Ephemera』James Jack
14 :	前橋七夕まつり
15 :	UTM2009 アートランドコミュニケーション「公園を布で彩る」展示風景
16 :	UTM2009 Pre Information Center
17 :	UTM2009 彫刻アートプロジェクト「道草」
18 :	UTM2009 町中アートプロジェクト ワークショップ「高校生フリーペーパーカルチャーを語ろう！」
19 :	金沢市内小学 4 年生全児童招待プログラム「ミュージアム・クルーズ」より コレクション展Ⅰ（2008 年）カールステン・ニコライ作品鑑賞風景
20 :	フラッグアート（前橋市）
21 :	UTM2009 アートランドコミュニケーション「公園を布で彩る」制作風景
22 :	UTM2009 伝統技術の応用によるイノベーション商品開発プロジェクト 「技と工芸感Ⅱ」ワークショップ【提灯】
23 :	前橋アートコンペライブ 2009 審査風景
24 :	日比野克彦アートプロジェクト 「ホーム→アンド←アウェー」方式 meets NODA [But-a-l]（2008-09 年） [But-a-l]ワークショップ
25 :	前橋市民芸術文化祭・市民展覧会（美術）
26 :	前橋市収蔵美術作品展
27 :	「ドンぐり小僧の大集合プロジェクト in みゅーじあむ」（群馬県立近代美術館）
28 :	日比野克彦アートプロジェクト 「ホーム→アンド←アウェー」方式（2007-08 年） 「ホーム→アンド←アウェー」方式のための幕絵

[写真提供]

- ・東京藝術大学美術学部：写真 No.1、2、3、4、5、6、7、10、11、12、13、15、
16、17、18、21、22
出典『上野タウンアートミュージアム8プロジェクト+記録概要集』
- ・金沢 21 世紀美術館 ：写真 No.8、19、24、28
- ・寺澤事務所 ：写真 No.9、27
- ・前橋文化デザイン会議：写真 No.20

参考資料

1. これまでの経過

平成 19 年 7 月	文化国際課「収蔵庫整備」を主目的とした整備案を策定
平成 19 年 10 月	第 1 回美術館構想庁内検討委員会（関係部課長会議） ＊庁内ワーキンググループを作業部会として、今後、活動する了承を得る
平成 19 年 12 月～	庁内ワーキンググループ（WG）設置
平成 20 年 10 月～ 平成 21 年 3 月	市民によるワークショップの実施

（1）庁内ワーキンググループ（WG）での検討

■主な検討内容

「機能の柱」 ※①②③は一般的な機能、④が市民参加と独自性を付加する機能

①市民ギャラリー機能

市民展など、市民の発表の場としてのニーズに対応

②常設展示機能

これまで収集した本市収蔵作品の展覧機会の創出

＊年 1 回開催の収蔵美術展のアンケートでも、小規模でも良いので常設展示施設を望む意見が多い

③収蔵（庫）機能

収蔵作品の安全な保管

④ソフト事業機能（＋最後発型として）

名品展示型でなく、多くの市民参加を促進する芸術・アート活動の触媒的な発信・コーディネート機能

(2) 市民によるワークショップ(美術館構想に向けてのワークショップ)での検討

■目的

庁内WGでの検討の中で、平成20年度は「市民ニーズの把握」に努めることになったが、市民アンケート等で回答が散漫なものになってしまうことや設問に対する行政の誘導要素の懸念から、全体の進行を群馬大学社会情報学部の小竹裕人准教授にお願いし、ワークショップの手法による市民ニーズの把握を行った上で、その後の展開を考えていくこととなった。

ワークショップでの検討結果は美術館基本構想を検討する際の参考資料として活用することとした。

■メンバー構成 [市民21名(7名×3グループ)]

20歳代から70歳代までと幅広く、職業・経歴も学生、主婦、教員、会社経営者、福祉関係者、地域活動家、デザイナー、アーティストなど様々なメンバーで構成。

■ワークショップで出された3グループの意見

【Aグループ】(P.12参照)

つくり方をつくる～「市民が参加・参画できる4つの仕組み」

＊「ハコ」としての新しい美術館の「機能」や「意味」を見出す前に、市民みんなが美術館づくりに参加・参画できるような「仕組み」を検討。

- ①財源確保のための企業と市民によるパトロン制度
- ②アーティスト招聘・アーティスト育成のためのホームステイ制度
- ③おとなと子どものためのラーニング・デザインセンター
- ④学校とアートのコネクトセンター

【Bグループ】(P.12参照)

「前橋デザイン現代美術館」～地域と芸術文化の協働

＊多目的な機能を内包するアートセンターではなく、最小限の美術館機能を持つ施設を設置し、その周辺に市民や若手作家の発表の場を担う小規模施設を分散させて設置。

＊芸術文化・産業・教育・環境が相互に連携する。

【Cグループ】(P.13参照)

「前橋の魅力をデザインするデートスポット美術館」

＊アーティストの作品制作に参加する。アーティストと共に制作する。

＊楽しみながら学べる・参加型・体験型のワークショップ

＊前橋の魅力をデザインするためのアーティストと市民の活動のターミナル

注) 本ワークショップの提案については、次ページに縮尺版を掲載しているほか、市のホームページ上でも公開しています。また、報告書も希望者に配付しております(部数に限りがあります)。

「つくり方をつくる」

「美術館はいい。」

私たちのWSは、ここからスタートしました。

ゆるやかな雰囲気の中で、自己紹介も兼ねて自分の仕事や専門分野を話すうちに、ほろりとこぼれ落ちた美術館への思い「心地よい場所」「アート×モノ・モノ・コトを媒介にしたコミュニケーションや学びが起きる場所」「市民のアート作品を飾り、文化を発信していく場所」「プロセスを楽しめるオルタナティブな場」…。それは都会にある大きな美術館や、従来の美術館とは少し違った意味や機能を

もつ「場」への期待やあこがれもありました。私たちはこれらの思いと、「市民性」「グローバル」「国際性」と地域性「教育」「育成」「町おこし」の切り口から話し合いを進めてきました。

WSの回数を重ねていくうちに私たちは「市民の手による美術館づくりに」一つの方向性を見出しました。

「市民による主体的な参加・参画の蓄積は、やがて（市民にとって）本当に必要な美術館をカタチづつていくのではないか」というような考えから、「ハコ」としての新しい

「つくり方をつくる」

「美術館はいい。」

私たちのWSは、ここからスタートしました。

ゆるやかな雰囲気の中で、自己紹介も兼ねて自分の仕事や専門分野を話すうちに、ほろりとこぼれ落ちた美術館への思い「心地よい場所」「アート×モノ・モノ・コトを媒介にしたコミュニケーションや学びが起きる場所」「市民のアート作品を飾り、文化を発信していく場所」「プロセスを楽しめるオルタナティブな場」…。それは都会にある大きな美術館や、従来の美術館とは少し違った意味や機能を

もつ「場」への期待やあこがれもありました。私たちはこれらの思いと、「市民性」「グローバル」「国際性」と地域性「教育」「育成」「町おこし」の切り口から話し合いを進めてきました。

WSの回数を重ねていくうちに私たちは「市民の手による美術館づくりに」一つの方向性を見出しました。

「市民による主体的な参加・参画の蓄積は、やがて（市民にとって）本当に必要な美術館をカタチづつていくのではないか」というような考えから、「ハコ」としての新しい

「つくり方をつくる」

「美術館はいい。」

私たちのWSは、ここからスタートしました。

ゆるやかな雰囲気の中で、自己紹介も兼ねて自分の仕事や専門分野を話すうちに、ほろりとこぼれ落ちた美術館への思い「心地よい場所」「アート×モノ・モノ・コトを媒介にしたコミュニケーションや学びが起きる場所」「市民のアート作品を飾り、文化を発信していく場所」「プロセスを楽しめるオルタナティブな場」…。それは都会にある大きな美術館や、従来の美術館とは少し違った意味や機能を

もつ「場」への期待やあこがれもありました。私たちはこれらの思いと、「市民性」「グローバル」「国際性」と地域性「教育」「育成」「町おこし」の切り口から話し合いを進めてきました。

WSの回数を重ねていくうちに私たちは「市民の手による美術館づくりに」一つの方向性を見出しました。

「市民による主体的な参加・参画の蓄積は、やがて（市民にとって）本当に必要な美術館をカタチづつていくのではないか」というような考えから、「ハコ」としての新しい

「つくり方をつくる」

「美術館はいい。」

私たちのWSは、ここからスタートしました。

ゆるやかな雰囲気の中で、自己紹介も兼ねて自分の仕事や専門分野を話すうちに、ほろりとこぼれ落ちた美術館への思い「心地よい場所」「アート×モノ・モノ・コトを媒介にしたコミュニケーションや学びが起きる場所」「市民のアート作品を飾り、文化を発信していく場所」「プロセスを楽しめるオルタナティブな場」…。それは都会にある大きな美術館や、従来の美術館とは少し違った意味や機能を

もつ「場」への期待やあこがれもありました。私たちはこれらの思いと、「市民性」「グローバル」「国際性」と地域性「教育」「育成」「町おこし」の切り口から話し合いを進めてきました。

WSの回数を重ねていくうちに私たちは「市民の手による美術館づくりに」一つの方向性を見出しました。

「市民による主体的な参加・参画の蓄積は、やがて（市民にとって）本当に必要な美術館をカタチづつていくのではないか」というような考えから、「ハコ」としての新しい

「つくり方をつくる」

「美術館はいい。」

私たちのWSは、ここからスタートしました。

ゆるやかな雰囲気の中で、自己紹介も兼ねて自分の仕事や専門分野を話すうちに、ほろりとこぼれ落ちた美術館への思い「心地よい場所」「アート×モノ・モノ・コトを媒介にしたコミュニケーションや学びが起きる場所」「市民のアート作品を飾り、文化を発信していく場所」「プロセスを楽しめるオルタナティブな場」…。それは都会にある大きな美術館や、従来の美術館とは少し違った意味や機能を

もつ「場」への期待やあこがれもありました。私たちはこれらの思いと、「市民性」「グローバル」「国際性」と地域性「教育」「育成」「町おこし」の切り口から話し合いを進めてきました。

WSの回数を重ねていくうちに私たちは「市民の手による美術館づくりに」一つの方向性を見出しました。

「市民による主体的な参加・参画の蓄積は、やがて（市民にとって）本当に必要な美術館をカタチづつていくのではないか」というような考えから、「ハコ」としての新しい

2. 構想の背景

（１）地方美術館の課題

①入館者数の低迷

一部の美術館を除いて、美術への関心の高い一部の利用にとどまり、市民全体に親しまれる存在になっていない。

②運営費の削減、指定管理者制度導入など、運営の不安定化

公共施設として、市民やまちづくり、行政施策に位置づけた存在意義が示せていない。

（２）全国美術館の動向

①文化芸術の重要性に対する社会的認識の向上

地域の文化芸術の中核としての位置づけ、他の文化施設や学校、地域社会との連携促進が求められている。

先進事例として、市街地に立地する美術館が拠点となり、市民とまちを取り込んだアートプロジェクトが実施され、まちづくりや活性化に成果をもたらしている。

②市民による参画意欲の拡大

心の豊かさへの関心が高まるなか、団塊の世代などには文化的関心の高い層も多く、創作活動による自己表現や社会貢献活動への意欲も高まりを見せている。

③教育普及の重要性の高まり

幼児期や成長期での文化芸術とのふれあいは、豊かな感性や知性など人間性の育成に大きく関わる。学校教育においては、カリキュラムと連動した教育プログラムの展開が求められている。

また、市民による創作活動への参画が求められている。

④テーマや表現形態の多様化

漫画やアニメ、ファッション、デザインなど、幅広いテーマの展覧会が人気。インスタレーションやメディアアート、環境芸術など表現手法も多様化し、まちなかでのアートイベントが全国的に展開されている。

⑤他の美術館や地域、企業等との連携の強化

運営費が削減されるなか、事業活動の継続と活性化を目指し、館外との連携強化が進んでいる。

（３）前橋市の将来像　〔第６次前橋市総合計画〕

■将来都市像：「生命都市いきいき前橋」

■分野別計画／文化：「個性と創造性あふれる地域文化を振興します」

■１０年後の目指す姿：

◎市民が文化芸術にふれる機会が増え、文化芸術活動に積極的に取り組んでいます。

◎市民が地域に根ざした文化に親しみ、郷土に対する愛着や誇りを育んでいます。

◎市民が多文化理解を深め、世界の人々と活発に交流しています。

（４）市民ニーズ

■基本的ニーズ（収蔵美術展でのアンケート等）

①市民ギャラリー

②常設展示室

③収蔵庫

■美術館構想に向けてのワークショップでの主なニーズ

①美術との出会いの場で、活動やネットワークの核

②まちの核となり、地域活性化に寄与する活動の推進

③アーティストの育成

④市民が活動に参画し、美術館を支えるしくみづくり

3. 前橋市における美術館基本構想検討委員会の概要

■「前橋市における美術館基本構想検討委員会」設置要綱

（設置）

第1条 前橋市第六次総合計画に基づき、優れた芸術作品の鑑賞や芸術文化活動の促進のための本市における拠点となる美術館の基本構想について提言及び報告を行うことを目的として、「前橋市における美術館基本構想検討委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 委員会は、市長の求めに応じ、本市が設置しようとする美術館の在り方について必要な事項を協議し、市長に提言を行うものとする。

（組織）

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、社会的信望があり、かつ、芸術文化について高い識見を有する者のうちから市長が委嘱する。

（任期）

第4条 委員の任期は、委嘱の日から平成22年3月31日までとする。ただし、市長が必要と認めるときは、その期間を延長することができる。

（委員長及び副委員長）

第5条 委員会に委員長及び副委員長1人を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総括し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（意見の聴取等）

第7条 委員長は、必要があると認めたときは、委員会の会議に関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

（庶務）

第8条 委員会の庶務は、政策部文化国際課において処理する。

（その他）

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成21年10月 2日から施行する。

■「前橋市における美術館基本構想検討委員会」 委員一覧

氏 名	性別	役 職 等	略 歴 等
委員長 池 田 政 治	男	東京藝術大学 美術学部長	前橋市在住。東京藝術大学美術学部デザイン科教授。藝大創立 120 周年記念担当(学長特命)を歴任後、平成 21 年 4 月より美術学部長に就任。専門：デザイン、パブリックアート。
副委員長 真 室 佳 武	男	東京都美術館 館長	神奈川県在住。平成 6 年度から前橋市収蔵美術品専門委員。元群馬県立近代美術館学芸課長(当時、前橋市在住)。(財)東京都歴史文化財団理事。専門：近代洋画、西洋美術。
有 村 真 鐵	男	前橋市民展覧会 副委員長(美術部長)	前橋市在住。洋画家。自由美術協会会員。群馬県美術会(県展)常任理事。第 54 回(平成 15 年)群馬県美術会会長を歴任。
伊 東 順 二	男	富山大学 芸術文化学部 教授	富山県在住。アートプロデューサー、美術評論家、富山市参与、前長崎県立美術館館長、パリ日本文化会館運営委員等。前橋アートコンプライブ(平成 21 年で 13 回)において審査員長。専門：現代美術論、文化マネジメント論、「芸術による地域貢献」など。
内 山 恵 子	女	「美術館構想に向けてのワークショップ」 グループリーダー	前橋市在住。社会福祉士(内山社会福祉事務所)。粕川アートフェスティバルに「陶芸展／布展」で参加。ワークショップグループリーダー。
岡 部 あおみ	女	武蔵野美術大学 造形学部 芸術文化学科 教授	東京都在住。美術評論家、資生堂ギャラリーアドバイザー、東京国立近代美術館評議員等。アート関係の膨大なインタビューを集積した WEB サイト「カルチャーパワー」を運営。専門：近現代美術史、芸術批評、アート・マネジメントなど。
黒 沢 伸	男	金沢湯涌創作の森 所長	石川県在住。元水戸芸術館専門職員、元金沢 21 世紀美術館エデュケーター。金沢 21 世紀美術館の開館から関わり、アートを通じ、まちと作家と市民を結ぶ活動を主導。
寺 澤 徹	男	「美術館構想に向けてのワークショップ」 グループリーダー	前橋市在住。デザイナー(寺澤事務所・造形教室併設)。元「子ども美術館」館長(NTT 高崎)、前橋駅前けやき通りライトアップ・アートディレクション、マイバスのロゴ担当。ワークショップグループリーダー。
茂 木 一 司	男	群馬大学 教育学部 教授	前橋市在住。“Art Education for all(誰もが生涯楽しめる美術教育)”をテーマに、美術館等におけるアート・ワークショップの開発・研究。前橋を拠点としてアートイベント・シンポジウム等を実施。専門：美術科教育、構成論。

9名(敬称略)

■「前橋市における美術館基本構想検討委員会」 開催経過

開催日	検討事項
第1回検討委員会 平成21年11月30日	1. 委嘱状の交付 ・市長あいさつ ・委員自己紹介 2. 検討委員会 ・委員長・副委員長選出 ・基本構想検討委員会概要説明 ・意見交換
第2回検討委員会 平成22年1月25日	1. 基本理念の検討に向けた基本的な考え方の検討 2. 展開する事業活動の検討 3. その他の意見交換
第3回検討委員会 平成22年2月15日	1. 基本理念の検討（提言(案)） 2. 事業活動の検討（提言(案)） 3. 施設面の検討 4. 運営面の検討 5. その他の意見交換
第4回検討委員会 平成22年3月29日	1. 提言(案)の検討 2. その他の意見交換 3. 今後の進め方

前橋市における美術館基本構想

平成22年7月

発行：前橋市

編集：前橋市政策部文化国際課

〒371-8601 前橋市大手町二丁目12番1号

TEL 027-224-1111（代表）

e-mail bunka@city.maebashi.gunma.jp

